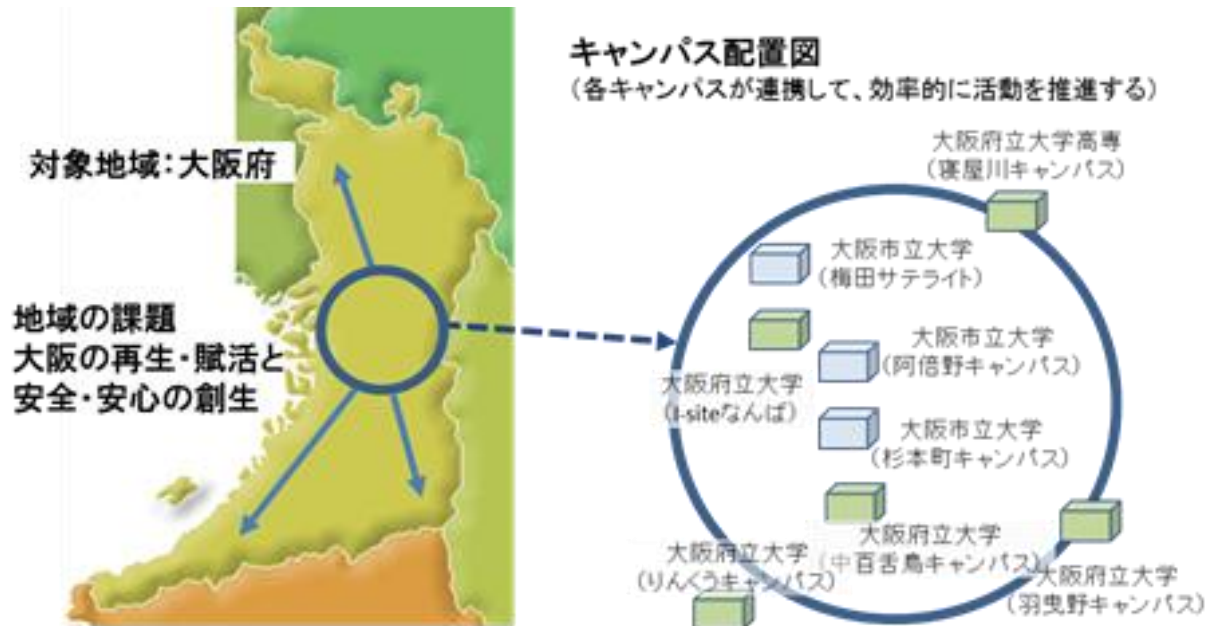


大阪の再生・賦活と安全・安心の創生をめざす 地域志向教育の実践



大阪市立大学・大阪府立大学

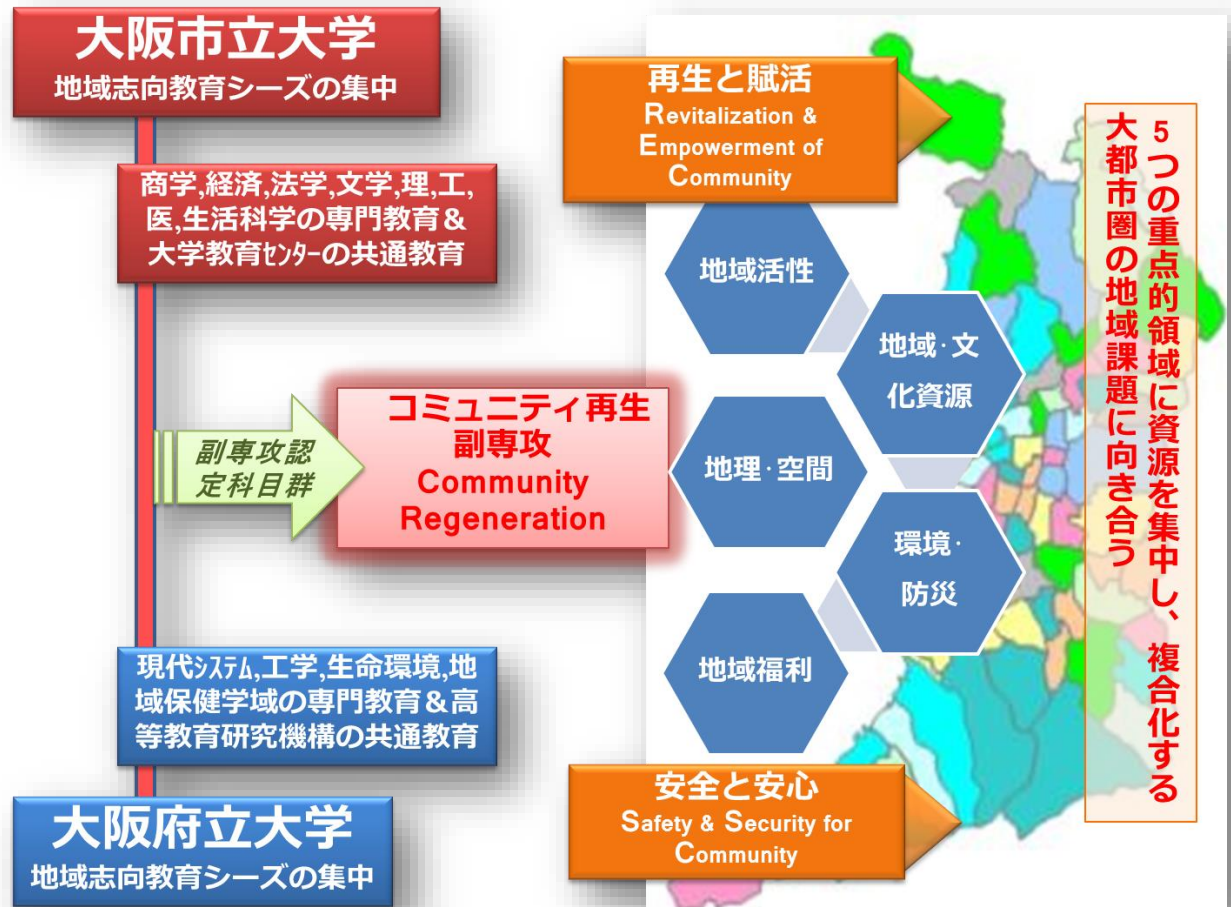
「目的・目標」

1. 教育という基盤に研究・地域貢献を体系的に取りこみ、**公立大学としてのプレゼンス**をさらに強化し、教育や研究のクオリティを上げること
2. そのために、COC事業にスムーズに導入できる制度として、共通教育への**副専攻(コミュニティ再生Community Regeneration :CR)**設置を通じて、大学改革へのインパクトを明示化すること
3. 複合化する大都市圏の問題を、「**再生と賦活**」、「**安全と安心**」の明確な2視点から捉え、集中的に地域問題の解決に取り組むこと
4. これまでにも増して、地域に貢献する人材の育成に注力し、課題の解決のみならず、地域の成長を促進・持続すること

「プログラムの特徴・ポイント」

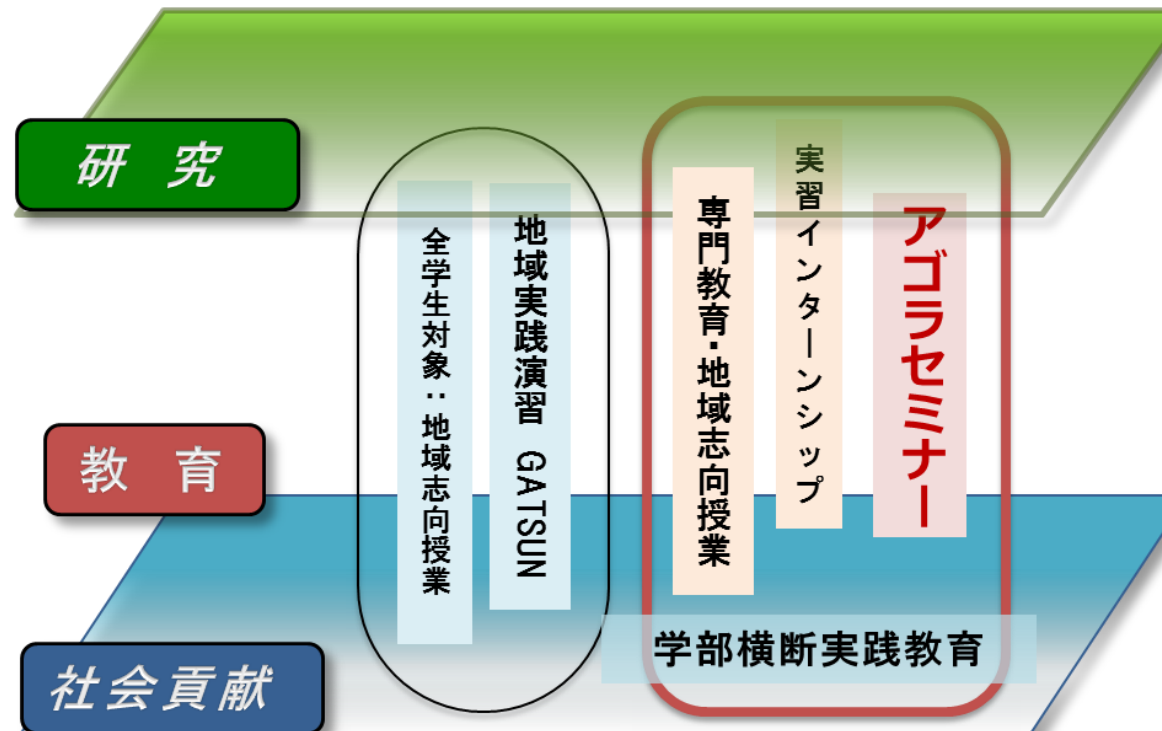
1. 「再生・賦活」と「安全・安心」のもと以下**5つの領域**が、両大学の持ち味が出せる得意分野であり、大学資源を重点的に投下し、地域と向き合い連携する体制を取ったこと

- 地域福利
- 環境・防災
- 地理・空間
- 地域・文化資源
- 地域活性



「プログラムの特徴・ポイント」

2. 全学共通教育に**CR副専攻**を導入し、両大学が無理なく運営できる体制を導入
3. 副専攻教育を実質化するために、コアの看板科目となる「**地域実践演習 GATSUN**」、「**アゴラセミナー**」を新設
4. コアの看板科目をより広い裾野で支える、「**地域志向教育**」科目の認定
5. **専門教育**で地域志向教育を既実践し、あるいは今後の実践への支援
6. 正課外での**実習インターンシップ**の導入



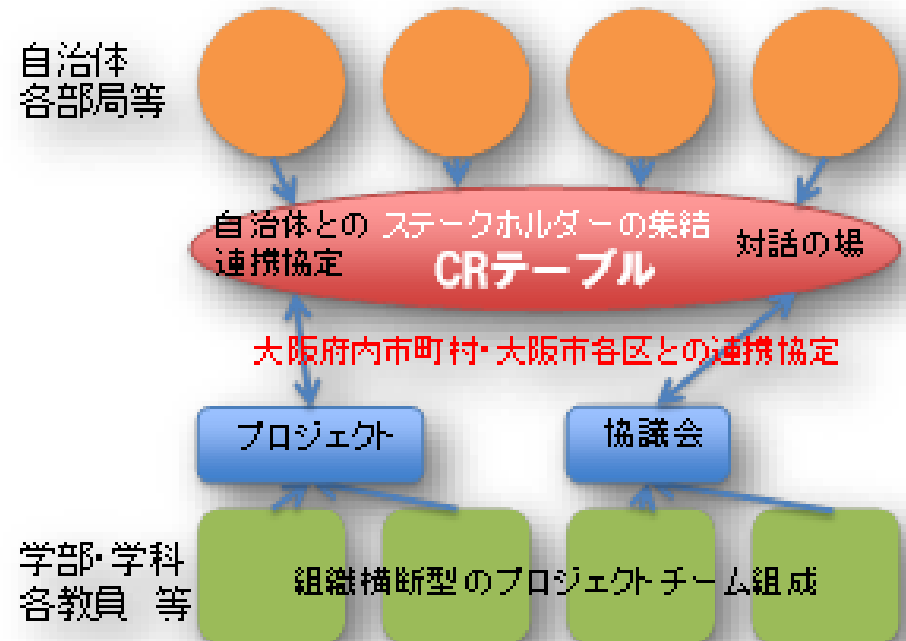
「プログラムの特徴・ポイント」

7. コア科目の、1回生「**地域実践演習**」、2回生「**アゴラセミナーⅠ、Ⅱ**」、3回生「**アゴラセミナーⅢ**」を中心とするカリキュラムマップは以下のように、段階的に構成されている
8. **スキルと力の段階的獲得**がはかられ、計画・デザインする力だけでなく、地域で実際に解決策を展開できる実践力を養うことが可能となっている

	CR認定 全学教育科目	地域実践演習	アゴラ セミナーⅠ (再生・賦活)	アゴラ セミナーⅡ (安全・安心)	CR認定地域志 向教育科目 (専門)	実習インター ンシップ (課外)	アゴラ セミナーⅢ
<u>伝えるスキル</u>					<u>支援する力</u>	○	◎
<u>行動するスキル</u>					○	◎	○
<u>分析するスキル</u>					◎	○	
<u>見出すスキル</u>			◎	◎			<u>総合・協働する力</u>
<u>識るスキル</u>	○	◎	○	○			
<u>地域課題の見知</u>	◎	○			<u>デザインする力</u>		
学年進行	1回生	1回生	2回生	2回生	2回生	2～3回生	3回生
副専攻必要単位	(2単位)	2単位	2単位	2単位	4単位	—	2単位

「プログラムの特徴・ポイント」

9. 地域志向の授業導入のため、地域とのつながりや交流を生み出し連携を実現する「CRテーブル」を設置
10. 地域との出会いの場、「CRテーブル」の設定による地域ニーズや課題の把握、研究テーマやエリアの確定から、授業化へ
11. 地域志向授業実施にむけての**地域志向教育研究**の公募
12. 授業評価に対する新制度導入



1回生「地域実践演習」

1. 大学の授業を地域の現場に展開し、そこで地域課題の解決を志向するという、すぐれて実践的な初年次教育としての**地域実践演習「GATSUN=Guts Appointing Training Strategy in UNiversity」**。3科目でスタート。
2. 入学したての学生が地域に関心をもつエントリーカリキュラム
3. 5領域で、座学型、近隣型、遠隔地型と学ぶ地域にバラエティ

文部科学省
地(知)の拠点「地(知)の拠点整備事業」
全学共通科目にて新規開講
「地域実践演習(GATSUN)」

平成27年度より、大阪の「再生・賦活」「安全・安心」の創生を目指す地域志向型の教育プログラムが始まります。今年はその先駆けとして、アクティブラーニングと地域での学習と活動がメインとなる「地域実践演習」が始まります。

平成26年度は3つの演習が開講されます！

- 我孫子町商店街の活性化を通じたまちづくり**
JR我孫子町商店街の活性化のための課題を発見したり、その解決策を考えてもらいます。商店街の視察や地域でのヒアリング調査などを通じて、より実践的な学びを展開します。
- 住吉・住之江・西成におけるいのちを守る都市づくり実践**
頻発する自然災害に対する、強靱な地域づくりが我が国の課題となっています。本講座では、大阪での防災課題を把握し、防災対策の基礎を实践を通して学んでいきます。
- 紀伊半島新宮市における地域再興の学修**
世界遺産を有する和歌山県新宮市をフィールドに、高齢化の進む中山間地域における農耕による地域再興や、ニューツーリズムによる地域のエンパワメントについて学びます。

お知らせ
地域実践演習
GATSUN!
合同ガイダンス

日時 平成26年 4月14日(月) 16時20分～
会場 共通教育キャンパス 基礎教育実験棟 1階 階段教室

演習 I
我孫子町商店街の活性化を通じたまちづくり実践

演習 II
住之江・住吉・西成におけるいのちを守る都市づくり実践

演習 III
紀伊半島新宮市における地域再興、ニューツーリズムの学修

さあ、と地域に飛び込もう!

平成26年度より地域実践演習 I、地域実践演習 II、地域実践演習 III が新しく開設されます。地域実践演習は、1回生を対象に、教員が学生と一緒に地域に入り、地域が抱える課題を発見し、解決をめざす実践的な演習科目です。社会貢献を通じて自分の役割、学ぶ意義を再認識するとともに、学生が主体的に課題に取り組み、アクティブ・ラーニングを通じて、論理的に考えるスキル、自分の思いを他者に伝えるスキル、他人と協力しながら目的を実現するスキルなどの修得もめざします。

履修についてのお問い合わせ
大阪府立大学プロジェクトマネジメントオフィス(略称 PMO)
ホームページ: <http://www.ccc-osaka.jp/>
TEL: 06-6605-2068 / FAX: 06-6605-3505 / E-mail: pmo-ccc@do.osaka-cu.ac.jp

2回生「アゴラセミナー I、II」

1. 実際の**現場の息吹に触れ、実践家と集中的に交流、意見を交換**し合うことで、問題、課題を見出すスキルを身につけ、そして現場に即した解決策をデザインする力を学ぶ
2. **実践家レクチャー、現場研修**（実践家or教員がイニシアティブ）、**ワークショップ、討論**等の組み合わせである、教員は企画調整役に徹し、セミナーを運営



2~3回生専門課程「地域志向教育科目」 課外インターンシップ実習

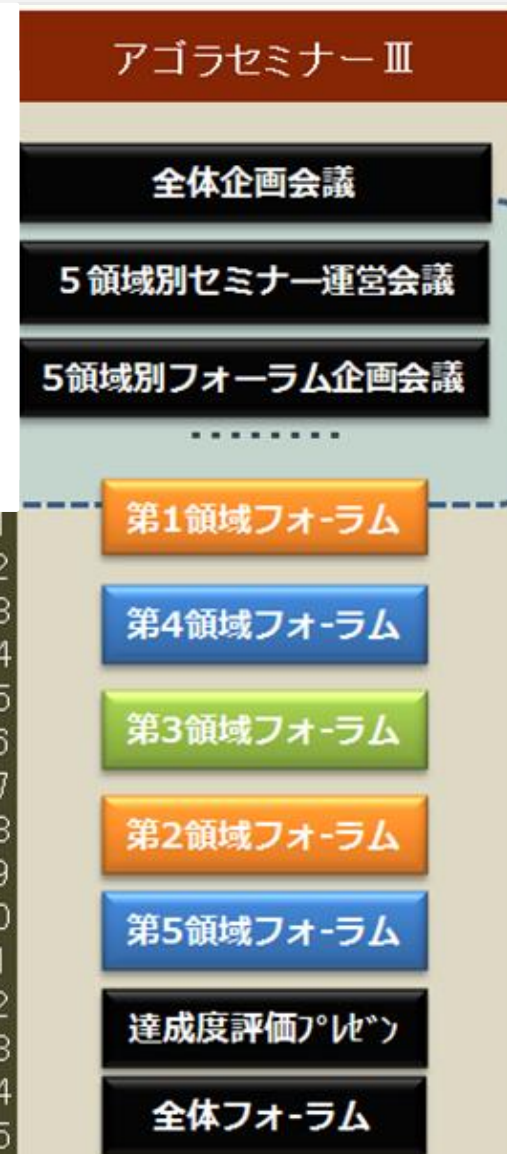
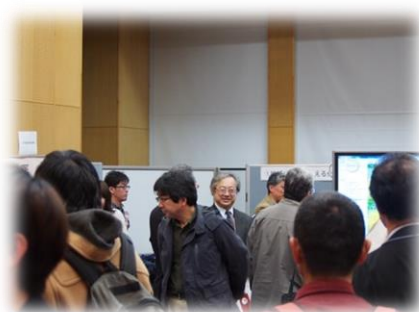
1. 既設、新設の講義、演習など、**CR副専攻へ開放された専門科目**を通じて、多様なアプローチの学習
2. 現実的課題との格闘を通じて求められる専門的知識を、CR認定の専門教育科目群により獲得し、分析するスキルを磨く
3. 地域志向の科目認定と**地域志向教育研究**経費による支援

	CR認定 全学教育科目	地域実践演習	アゴラ セミナーⅠ (再生・賦活)	アゴラ セミナーⅡ (安全・安心)	CR認定地域志 向教育科目 (専門)	実習インター ンシップ (課外)	アゴラ セミナーⅢ
学年進行	1回生	1回生	2回生	2回生	2回生	2~3回生	3回生
副専攻必要単位	(2単位)	2単位	2単位	2単位	4単位	—	2単位

4. 課外の**インターンシップ実習**は、領域横断的な専門科目を提供する教員や、地域のカウンターパートが提供する様々な形態のワークを通じて提供。現場実習のみならず、調査分析や調査員としての参加もあり

3回生「アゴラセミナーⅢ」

1. プレゼン、フォーラムは**学生がイニシアティブ**をとり、セミナーを運営、教員は裏方
2. それまでの学修の集大成として、自ら設定した地域課題を解決する具体案や論文などを**関係者の前で発表するフォーラム**
3. 外部評価など地域との交流を通じた、**総合的な力の集大成**。副専攻達成度を最終的に審査、認定



「地域志向教育研究 H25年度の実績」

地域志向教育を授業として推進するバックアップ経費、授業の準備や教材作成、CRテーブルの企画、運営など、COCの根幹事業の一つ。学内競争的資金ともマッチングさせ、シナジー効果を発揮

〔地域志向教育研究〕

1. 〔地域福利〕 縮小都市、分権改革下の新しい公共のあり方に関する教材・教育プログラム開発
2. 〔環境・防災〕 いのちラボにおけるコミュニティ防災実践のための教材・教育プログラム開発
3. 〔地理・空間〕 大阪の建築ストックを活用したまちづくり、地域活性化手法に関する研究
4. 〔地域・文化資源〕 アーツマネジメントによる大学と市民の交流を通じた地域活性／地域再生と都市の大学／博物館「活動」の総合的な魅力を学ぶプログラム開発
5. 〔地域活性〕 商店街の活性化を通じたまちづくりの可能性について調査研究／大阪北区における商店街活性化計画策定調査—地域資源の発掘、革新的新業種の抽出調査

「地域志向教育研究 H25年度の実績」

〔学内競争的資金〕

1. **〔地域福利〕** 生活困窮者自立支援法下の新事業を先駆ける居住・就労支援の先進事例調査－西成特区構想とホームレス支援NPO等の調査を通じて－
2. **〔環境・防災〕** 災害時自力避難のための高齢者の「避難力」評価指標の開発／いのちを守る都市づくりによる災害知の社会実装～「いのちラボ(旧まちラボ)・ネットワーク」の開発～
3. **〔地理・空間〕** 都市再生手法としての歴史的建造物のストック活用に関する研究－大阪都心部を事例として－
4. **〔地域・文化資源〕** 豊臣大阪城・城下町の総合的研究－「落城」400周年、文理融合・博学連携プロジェクト－

「CRテーブル H25年度の実績」

1. **地域福利**の分野では、西成区においては、受託事業を通じ区のイメージアップと情報アーカイブ事業を通じて、西成区の正しい理解とイメージアップの取り組みに貢献した。
2. **環境・防災**の分野では、3区連携協定を結んだ住之江区、住吉区、西成区と、都市防災研究協議会、3区防災研究協議会、防災計画G、災害支援G、防災研究G、防災講演G、コミュニティ防災教育Gに組織化し、活動を実施した。
3. **地理・空間**の分野では、都心部における建築ストックを生かしたまちづくりに関する社会実験イベントは大きな反響を呼び、ボトムアップ型の地域再生の見本を提示できた。
4. **地域・文化資源**の分野では、博学連携においては、大阪市博物館協会と連携した取り組みを通じて、博物館の課題の摘出を総合的な魅力を学ばせるモデルを提言した。
同じく地域・文化資源の分野では、住吉区を中心に、区役所や交通局、市大病院や企業人材も巻き込み、地域資源の利活用をアートを介して推進するコミュニティにおけるアートマネジメントの実践の提案を行った。
5. **地域活性**の分野では、住吉区と生野区における商店街の再生の取り組みの試行段階であるが、区役所もハブとして地域との関わりが形成された。

「CRテーブル H25年度の実績」

文部科学省
地(知)の拠点 平成 25 年度採択文部科学省
「地(知)の拠点整備事業」(大学 COC 事業)
 大阪市立大学・大阪府立大学共同事業
 「大阪の再生・創造と安全・安心の創生をめざす地域志向教育の実践」

キックオフフォーラム開催のご案内

開催日時 2013年11月25日(月)
 15時30分～17時30分

場所 大阪市立大学 杉本キャンパス
 学術情報総合センター 10階大会議室

●●● 開会挨拶 ●●●

大阪市立大学 学長 西澤 貞記

●●● 講演 ●●●

「文部科学省地(知)の拠点整備事業(大学 COC 事業)の趣旨と概要」(仮)
 講師 志野 (文部科学省高等教育局大学政策課長 志野 忠良)
 「大阪市大・大阪府大共同申請プログラムの趣旨と概要」
 講師 道雄 (大阪市立大学 副学長)

●●● パネルディスカッション ●●●

「大阪市大・大阪府大共同申請プログラムの実施計画と教育の具体的あり方」(仮)
 パネリスト 大阪市立大学 施設長 大塚 隆平 副学長 志野 忠良
 加藤 司 (大阪府立大学 経営学研究所 所長)
 水内 健雄 (大阪市立大学 都市研究プラザ 学術情報センター 所長)
 橋本 光希 (大阪市立大学 工学部 学部長)

ファシリテーター: 高橋 信也 (大阪市立大学 学務部長・学務部副学長兼学務課長)

●●● 閉会挨拶 ●●●

大阪府立大学 副学長 石井 実

主催: 大阪府立大学 学術情報総合センター(仮) 副学長

▶お申込み

E-mail: 野原 隆一 (野原 隆一 TEL 06-6543-2111) を宛先に
 pmo-coc@do.osaka-cu.ac.jp からお申し込みください。
 ※当日無料券となりますが、配布資料やお酒の席上、お話しを聞きたい場合は
 申し込みが必要です。

主催: 大阪市立大学
 プロジェクトマネジメントオフィス
 大学教育研究センター

連絡先: (PMO) Tel: 06-6405-2048
 E-mail: pmo-coc@do.osaka-cu.ac.jp

共催: 大阪府立大学



〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138

文科省は COC 事業とは、大学等が自発的に選定し、金子財に活用を申請した教育・研究・地域創生を推進する大学を支援することで、国際的に
 競争力のある人材の育成、社会の発展、持続可能な社会の構築を促進することを目的として実施する。



都市 地域の再生と 大学の 共創

大阪市立大学・大阪府立大学 共催フォーラム

日時 2014年2月13日(日)13:30～17:00(開場18:00)〔入場無料〕

会場 中央電気倶楽部本館ホール(大阪市北区堂島2丁目1-25)

プログラム

開会挨拶 中川 英 (大阪市立大学学務部長)

第1部 十津川の暮らしと魅力
 東原 隆一 (NHK大阪放送局)
 西岡 英 (西岡)

第2部 林業の未来—木城学の提案—
 橋本 健 (大阪府立大学工学部 学務部長)
 藤 藤 (NHK大阪放送局)
 黒川 雅之 (大阪府立大学学務部長)

第3部 文化遺産による地域振興
 中川 英 (大阪府立大学学務部長)
 藤 藤 (NHK大阪放送局)
 三浦 明 (大阪府立大学学務部長)

第4部 パネルディスカッション 地域再生と大学
 大阪市立大学学長・学務部長・副学長
 大阪府立大学学長・副学長・副学長
 加藤 司 (大阪府立大学学務部長)

閉会挨拶 志野 道雄 (大阪府立大学副学長)

パネリスト COC事業紹介

平成 25 年度採択文部科学省
 「地(知)の拠点整備事業」(大学 COC 事業 (Center of Community))
 地(知)の拠点

大阪府立大学・大阪市立大学共同事業
 「大阪の再生・創造と安全・安心の創生をめざす地域志向教育の実践」

第3回 COC フォーラム

～地域の期待と大学の役割・取り組み～

文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」(大学 COC 事業)に採択された大阪府立大学と大阪市立大学の共同事業「大阪の再生・創造と安全・安心の創生をめざす地域志向教育の実践」の第3回 COC フォーラムを開催いたします。大阪市の成長と輝きのプロセスが進行する中、大阪市の深層に埋もれた潜在的な課題に、大学がどのように貢献し、大阪をどのように変えていくか? また、立位の両大が共同して地域課題に取り組み、今後の両大学のあり方について議論し、どのような大学改革・教育改革を実現していくのか? を議論していただきます。

2014年
3.25 (火)
 14:00～17:00

場所: 大阪府立大学 中百舌島キャンパス Uホール白鷺 | 定員: 500名
 参加料: 無料

開会挨拶	14:00～14:15	志野 道雄 (大阪府立大学学長)
COC 趣旨説明	14:15～14:30	文部科学省
COC 概要説明	14:30～14:45	志野 道雄 (大阪府立大学学長補佐)
シンポジウム		
基調講演	15:00～15:30	「大学に期待すること」 竹山 修 (併席者)
パネルディスカッション	15:40～16:50	「地域からの期待に大学はどう応えるか」
大塚 隆平 (大阪府立大学学務部長)	北田 健吉 (併席者)	
藤 藤 (NHK大阪放送局)	奥田 邦晴 (大阪府立大学教授)	
小野 達也 (大阪府立大学准教授)	森 一彦 (大阪府立大学教授)	
ファシリテーター	石井 実 (大阪府立大学副学長)	
閉会にあたって	16:50～17:00	志野 道雄 (大阪府立大学副学長)
		辻 洋 (大阪府立大学副学長)

お申込み・連絡先 総合司会* 山本 重雄 (大阪府立大学教授)

お申し込み: ほか他は E-mail にて「氏名」「所属」「連絡先(電話番号)」をご記入の上、下記宛先までお申し込みください。
 〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1
 大阪府立大学 地域連携研究機構 COC事務局
 TEL: 072-2554-3309
 E-mail: cocinfo@ml.osakafu-u.ac.jp

お申し込み: 大阪府立大学 同上
 *大阪府立大学 プロジェクト・マネジメント・オフィス (簡称 PMO)
 〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138
 TEL: 06-6605-2066 / FAX: 06-6605-3505

大阪府立大学までのアクセス
 阪神線 中百舌島駅 徒歩 約 10分
 近畿線 中百舌島駅 徒歩 約 1,000m
 近畿線 中百舌島駅 徒歩 約 1,000m
 近畿線 中百舌島駅 徒歩 約 1,000m
 近畿線 中百舌島駅 徒歩 約 1,000m



主催: 大阪府立大学 / 大阪市立大学

「CRテーブル H26年度の展開」

1. 特に**住吉区**においては、区役所の複数の関連部署との本格的に定期的なCRテーブルを実施する体制を整えた。**西成区**でも同じ体制の構築を予定している。
2. **住吉区**においてはCRテーブルを通じて域間交通に関する調査の予算化を実現させ、本年度受託研究として実施。
3. **西成区**との受託事業の継続の予算化も実現し、より広く西成特区構想事業との関連を見据えながら、イメージ向上とコミュニティミュージアムにつなげる社会実験を展開させることになった
4. 本学の**GIS**関連教員の研究成果を持ち寄り、行政におけるGISデータマネジメント、管理の人材育成に関する職員研修や、地域、住民へのGIS地域情報の公開と共有に関してCRテーブルでの協議を始めた。

「実施・支援体制」

1. **プロジェクトマネジメントオフィス PMO**を設置し、COC事業の推進担当を置き、大学教育センターと地域連携センターそれぞれのコーディネータと連携する扇形体制を取った
2. 所属を越えて連携を図り、教育・研究・社会貢献の情報を一元化し、戦略的に企画運営を行い、資金の効率的な執行体制を構築し、機関型外部資金への対応を図る
3. 教職協働する事業推進の中心的役割を担い、総合的に管理し、業務を効率的に推進し、大学組織の機能強化をめざす

Project
Management
Office

「COC事業の経過と今後の見取り図」

H25年9月

H25年度末

H26年度前期

以降

企画と実績

1stフォーラム
(キックオフ)

2ndフォーラム
(地域・文化資源)

3rdフォーラム
(府大/環境・防災)

2回の全体フォーラム(安全・安心、再生・賦活)

CRテーブル

地域・研究・教育を有機的に構成するプラットフォーム

CRテーブルの苗床
窓口 地域連携センター

← 3区連携協定 →

H25地域志向教育
8課題活動開始

CRテーブルワーキング

地域福利

環境・防災
取り組み・実績は別紙

CRテーブルとして自生

[再生・賦活] 「安全・安心」

地理・空間

地域活性

地域・文化資源

地域実践演習
(GATSUN)3科目開始

H26地域志向教育
* 課題活動開始

CR認定/CR副専攻科目へ展開
CRテーブル≒アゴラセミナー

地域志向認定科目
試行 * 科目開始

大学・住吉区
連携協議会

市・区への研修制度や
高度職能人養成へ展開

地域課題解決のために、政策決定者に対して政策的なアドバイス

リーフレット、
WEB公開

紹介冊子、
GATSUN紹介冊子

3大学訪問調
査(COC先進)

教職員学生地
域アンケート

コーディネーター、
事務局体制

PT会議

CR部会

地域志向教育公
募選考委員会

PMO

プロジェクトマネジメント
オフィス

「CRテーブルから人材研修への展開の一例：GIS」

